

ブッダ 孔子は同時代に生きた

紀元前5世紀前後

紀元前5世紀前後は、世界各地で名だたる思想家たちが活躍していた時代と言えるでしょう。

インドでは釈迦(前563頃～前483頃)、中国では孔子(前551頃～前479頃)や老子(生没年不詳ですが、この時期と推定されます)などです。彼らの後に活躍したのがギリシアのソクラテス(前469頃～前399頃)です。

この三人はいずれも長寿で約80歳位まで生きています。驚きですね！

また、孔子もソクラテスも政治家を目指したが果たせず教育者となり、ブッダは王子の座を捨てて出家しています。

孔子は春秋時代の学者・思想家、有名な「論語」を通じ、後世に多大な影響を与えています。

また、ユダヤ人によって『旧約聖書』が書かれたのもこの時期ですし、アケメネス朝ペルシアでゾロアスター教が発展したのもこの時期です。

その理由として考えられるのは、各地で社会変動(貨幣経済の発達、都市の出現、戦乱の頻発など)が起きたので、新しい価値基準の必要性があったことが考えられます。

紀元前5世紀頃は、世界的規模で大きな社会変動が起きた時代と言えるのかもしれませんがね。

参考までに、キリストは仏陀から500年くらい後ですしマホメットはキリストから600年後です。

孔子は、古(いにしえ)の様々な教えを、孔子自身の考えに基づき研究しました。

そして、正しい徳(仁、義、礼、知、信)を得ることを目指し、(仁を尊ぶ)人の生きる道として、孔子はその思想を大成させていったと言えるでしょう。

孔子の言葉や思想はその核心を示す仁(人を慈しむ心、慈愛、慈悲)を知ることによってその本質を知ることが出来ます。

孔子は、何より大切なその一つのことを生涯貫いた努力の人であったのです。

仁 (真の思いやりをもって人を慈しむ(真に愛する)心)

義 (正しい考え(思い)や言葉や行い、仁に基づく正義)

礼 (理に適った形や決まり等の行動の規範、仁に基づく礼)

知 (正しい学問や修養によって得られる知識と知恵、仁に基づく知恵)

信 (真実を行うことによって終局的に得られる信頼、仁に基づく信)

孔子の言葉(思想)をそのままに後世に伝えるものとして論語があります。

孔子の言葉(教え)や行動を後の人々(弟子や孫弟子等)が語り伝え、書き伝えやがて編集、記録した書物を残しました。その一連の書籍を論語と言います。

論語は、学而、為政、里仁、公冶長、雍也、述而、子路等の二十の篇に分かれています。

各篇はその内容や表現の長短や趣(おもむき)に多少の特徴も見られますが多くの篇は様々な内容を含んでいます。